

主な活動の紹介

【おしかけふれあい塾（公民館→学校）】

先に述べた公民館運営協議会の「地域づくり部会」では、公民館活動をしているグループが1年に1回程度、学校へ行き子どもたちと給食を共にし、授業や昼休みにふれあう「おしかけふれあい塾」を開催しています。公民館活動の「お返しの活動」として、年々定着しつつあり、逆に子どもたちからエネルギーをもらい高齢化する地域を元気付けています。



給食を一緒に・絵手紙



授業に・さわらび会



授業に・琴唄の会



昼休みに・大正琴

【学校が地域へ支援を要請（学校→地域）】

学校は学習支援・ふるさと支援・体験活動支援・生活環境支援・安全支援等の登録ボランティア制度を設けています。それぞれ必要に応じて地域に支援を要請してボランティアをお願いしており、昨今は地域のほうから学校へ働きかける状況も見受けられます。



サマースクール・魚さばきと野外活動

【油谷こどもミュージカル（子どもの地域への出番づくり）】



子どもたちは地域で守られるべき存在ではありますが、過疎と高齢化する地域で子どもたちに出番を作り、役割を与え、その活動に地域は賞讃を与えるというプラスのスパイラルづくりにも取り組んでいます。

子どもたちの合言葉は「地域の皆様に笑顔と元気を届け、感動の渦を巻き起こそう」であり、油谷地域全体で、こどもミュージカルを育てています。

今後の取組

【今年よりは、ベターな来年度へ、さらに、よりベターな次の年度に】長門市の地域協育ネットへの取組は、公民館型です。「地域総がかりで子どもの教育にあたる」というとき、それは地域のセンターである公民館の仕事です。学校では教師が100%の力で教育活動をしており、これに地域の力の20%を加え120%の力で子どもたちに「生きる力」を育てたいと考えています。そのために、今後下記に示す改善点や課題に取り組んでいくこととなります。

- 油谷地域協育ネット協議会の立ち上げ
- 公民館がコーディネートする地域協育ネット（公民館型）を広めていくための方策と改善点
- 地域協育ネットの活動がコミュニティづくりに直結する活動であることの理論構築と実践化
- 地域の様々な資源を掘り起こし、学校へ提供するメニューづくりと学校の教育課程への位置付け
- 保育園・小学校・中学校との連携の取組、さらには家庭教育への支援の拡充

コーディネーターさんにインタビュー

Q：公民館型地域協育ネットは広まりますか？

A：より良きコミュニティの中に、より良き学校が存在します。より良きコミュニティづくりは公民館の仕事ですから、広めていかなければならないと思っています。

Q：コーディネーターの仕事は楽しいですか？

A：こうした高齢化と過疎化が進む地域にあって、子どもと大人（特に高齢者）とを結び付け、互いにエネルギーをもらいあう光景を作り出すことは楽しいものです。